令和７年度　教育事業

おおずふれあいスクール（29年目）

１　事業概要

「おおずふれあいスクール」は、令和８年１月８日で29年目を迎えた。登録児童・生徒に対して、不登校で悩む子供たちの心に寄り添い、その心の居場所を提供するとともに、子供たちの自立を促し、進路決定に向けた支援を行った。

２　事業の目的（ねらい）

○　不登校及び不登校傾向にある児童生徒に対しては、所属校や関係機関等との連携を図りながら、学校復帰を目指し、基礎学力の補充や生活の支援を行う。

○　自己の存在感を実感させ、精神的に安心できる場所（心の居場所）の提供を行う。

３　企画のポイント

○　運営委員会を年２回（６月・２月）、専門委員会を年２回（６月・２月）開催し、登録生の受入状況や活動の様子について情報共有を図った。

運営委員会は、４市町教育委員会教育長、市内の小・中学校の校長・教職員の代表、高等学校分校長、社会教育関係者、心理療法士、国立大洲青少年交流の家の所長・次長・関係職員、スタッフの計19名で構成している。

専門委員会は、大洲市内の小・中学校教員（校長を含む）15名で構成している。専門委員会では、年７回の「ふれあいデー」を企画し、スクール生の活動を直接支援した。児童生徒とスポーツ、工作、自然体験活動などを一緒に楽しみながら、児童生徒の自立に向けた支援を行った。

○　スクール生の意欲・意思を尊重し、のびのびと活動できる環境を整えることで、心の居場所を実感できるようにした。ふれあいタイムでは、児童生徒の興味・関心に応じて参加活動を選択できるよう、「自然体験活動」や「文化・スポーツ体験活動」を計画した。

４　主　　催　　独立行政法人国立青少年教育振興機構　国立大洲青少年交流の家

５　共　　催　　大洲市教育委員会

６　期　　日　　令和７年４月１日～令和８年３月31日（通年）

７　場　　所　　国立大洲青少年交流の家及び近隣施設

８　対　　象　　大洲市及び近隣市町の不登校児童生徒等、16歳～18歳までのひきこもりがちな青年

９　募集人数　　15人（登録人数11人）

10　日　　程

⑴　開 所 日：月・火・木・金曜日。水曜日は学校チャレンジデー。休日は学校に準ずる。

⑵　開所日数：154日（１月31日現在）

⑶　通所延人数：204人（１月31日現在）

⑷　１日の流れ

9:00　9:20　　12:00　13:00　13:30　　15:00　15:30

月・火 木・金	マイプランタイム	スタディタイム			昼食	清掃	ふれあいタイム 専門委員との活動	１日の振り返り
		①9:20～10:00	②10:20～11:00	③11:20～12:00				

○　マイプランタイムで１日の計画を立て、スタディタイムで学習を行う。

○　ふれあいタイムでは、農園作業、スポーツ、工作、手芸等を行う。

○　水曜日の学校チャレンジデーは、可能ならば学校への登校を促す。

11　活動内容

⑴　スタディタイム

通所生の中には基本的生活習慣や学習習慣の定着が十分に図れていない児童生徒もいる。そのため、マイプランタイムで学習計画を立て、スタディタイムでは基礎学力の補充と学習習慣の確立を図った。また、中学生については、中間・期末テストや実力テストを受験できるよう、必要な学習支援や対策を行った。学校での別室受験や、ふれあいスクールでの受験を希望する生徒には、学校と連携しながら柔軟に対応した。さらに、高校受験を控えた中学３年生には、特定教科の講師を招いて学習指導を行った。中学生通所生については、高校進学を見据え、中学校と連携を図りながら継続的な学習支援を実施した。

⑵　ふれあいタイム

ア　自然体験活動

「おおずフラワーパーク」の一角にある体験農園「なるなる畑」において、講師の指導を受けながら年間を通してさまざまな野菜を育てた。子供たちは自然の中で季節の移ろいを感じながら、種まきから収穫までの一連の作業を体験することで、野菜を育てる喜びや苦労を実感することができた。

イ　文化・スポーツ体験活動

しおり作りやクリスマスツリーなどの創作・芸術活動、バドミントンや卓球、モルックなどのスポーツ体験活動を行い、心身のリフレッシュを図った。また、活動中に講師や仲間とコミュニケーションを取ることで、人と関わることの良さや安心感を味わうことができた。

⑶　ふれあいデー

年間７回「ふれあいデー」を実施し、創作活動やスポーツなどの体験を楽しんだ。大洲市教育委員会いじめ・不登校対策専門委員会の委員にも参加いただき、専門委員の専門性や技能をいかした多様な活動を提供することができた。これらの活動を通して、通所生と専門委員の関係が深まり、専門委員にとっても通所生の様子を把握する貴重な機会となった。

12　事業の成果

今年度で３回目となる進路説明会を夏季休業中に開催したところ、近隣市町からの参加も含めて、生徒 16 人、保護者 20 人、関係者 14 人の参加があった。三崎高校、内子高校小田分校、大洲高校肱川分校、帝京第五高校の４校の先生方には、学校の様子や特色について丁寧に説明していただいた。参加者が熱心に耳を傾ける姿から、この説明会に寄せられる期待の大きさや開催の意義を改めて感じることができた。この進路説明会をきっかけに登録する生徒もいることから今後も充実させていきたい。

また、通所方法については、今年度から保護者による送迎が難しい場合に、ふれあいスクールによる送迎を利用できるようにした。当初は、決められた場所に集合して乗車する方式を計画していたが、利用希望者が少なかったため、児童生徒の安全確保を最優先に考え、できる限り自宅近くまで送迎できるように運用を見直した。その結果、午後からの活動に参加する児童生徒も増えた。

13　事業の課題

今年度から開始した送迎車の運行については、運行方法、運転手の確保・連絡体制、市外への送迎対応など、討を重ねていく必要がある。

また、昨年度に引き続き、登録はしているものの家庭から出ることが難しい生徒には、今年度もアウトリーチ（家庭訪問）を実施しながら支援を行っている。家族や学校との連携を密にし、このような児童生徒に対する適切な支援の在り方を、今後さらに研究し、実践していく必要がある。

（担当：主任企画指導専門職　岡本　和也）